

卒業課題Ⅰ 伝統的民家の快適性

953237 小又 郁美

指導教員 成田 健一

暑さ、寒さの生理的感覚と自然に対する感情は、表裏一体のもので、それらは区分できないものであったのではないのでしょうか。防暑対策の基本が巧みに活かされ、日除けと通風を基本とし、自然を出来るだけ活用し涼しい住まいづくりに成功した伝統的民家と、高断熱・高気密といわれる現代住宅の防暑に対しての実状を調べた。

伝統的民家は、冬の暖かさを犠牲にしてまでも夏を旨とするつくりになっていて、内外の区別がつかないほど開放性を重視して暑さをしのいでいた。現代住宅は、外に対する意識も薄れ、プライバシーの保護の上でも開放的な住宅は好まれなくなり、機械設備を利用し快適な状態に近づけている。結果、どこへ行っても同じような建物や風景を見かけることが多くなった。伝統的な民家の再現ではない現代住宅の防暑対策として、高断熱・高気密住宅では、熱の侵入を防止することが大事であり、伝統的民家に見られるように庇を深く取り、日射を遮ることによって室内に蓄熱された劣悪な熱環境を和らげることが出来る。防暑の基本は伝統的民家から学ぶことができ、活用することにより快適な空間が作りだされる。

卒業課題Ⅱ コミュニティのコア的设计

自然に触れ合う地域施設

計画予定地は架空の場所とし、現在至る所で見られるごく普通の住宅街の中を想定し、コミュニティ・コアに必要なものとし小公園、建物の中にはスーパー、郵便局、金融機関、飲食店を設置することにより利用者が常に集まることが出来る場になるよう計画した。また、子供たちは親と一緒に来ることを考え、子供たちを公園・広場で遊ばせて親たちが安心して用事を済ませる空間にしたいと思った。私の住んでいる所から見える公園は、平日、休日を問わず早朝から老人がゲートボールのプレーや仲間との会話を楽しみ、日中には子供たちが走り回り公園での遊びを楽しんでいる。日が沈むころには、若者たちが集まり騒いだり、語り合ったり、特技の練習に励んでいる。このように共有の場を有効に活用していることが良く分かる。共有の場は、住民にとって、なくてはならないものだと思った。

設計するに当たり考慮したことを以下にまとめました。

1. 敷地の両サイドは車と歩行者とに分け、人と車の導線を離すことで安全に配慮した。
2. 広場には単純な巨大迷路を設置したり、鉄の棒が刺さっていたり、何も無い場所で自分なりの楽しみ方、遊びを見つけられるようにしたい。
3. 覗くことは子供から老人まで好奇心がそえられることだと思い、覗くと魚が見える覗き窓を設けた。この空間内部は飲食店で、水槽を下から見上げるようにし、いつも見ている魚を見る角度を変えて楽しませる。
4. 大きな空間をとりたかったので、車での来場は避けてもらい、自転車の駐輪場を地下に設けた。ただし、障害者を配慮し道路に面している部分の歩道は車が入れるようにする。
5. 地下に飲食店などがあり人の出入りが激しいので、避難口をたくさん設け安全を確保する。
6. 樹木の緑・水の青・大地の茶・自然の要素を取り入れ、住民にとって居心地の良い空間にしたい。

